

# 雌阿寒岳

## 1 概況

3 月 21 日の小噴火以降、噴煙活動は活発な状態でしたが、その後低下傾向が認められており、火山活動はやや活発な状態となっています。火口近傍では注意が必要です。

### 火山情報の発表状況（2006 年 6 月）

発表日時	情報番号	内容
5 日 16 時 00 分	火山観測情報第 32 号	活発な火山活動継続、その後の状況
12 日 18 時 35 分	火山観測情報第 33 号	活発→やや活発、第 104 回予知連の検討結果

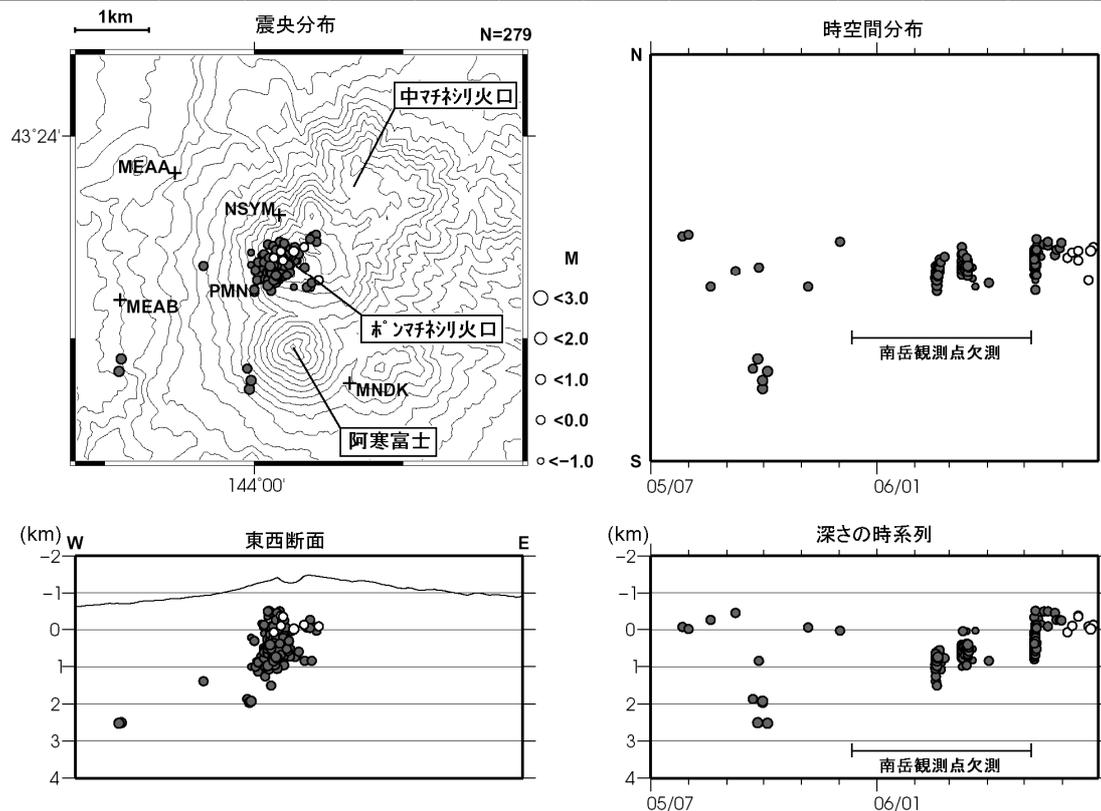
## 2 地震および微動の発生状況

地震活動は低調に経過しました。火山性地震は 1 日あたり 0~4 回と少ない状態で推移しました。震源は主にポンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ約 1.5km 付近）に分布していると推定されます。

火山性微動は 5 月 9 日以降、観測されていません。

### 地震・微動の月回数（B 点）

2005~2006 年	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
地震回数	14	16	18	22	20	44	22	1384	1290	128	986	34
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	5	4	0	1	0



雌阿寒岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

○印は今期間(2006 年 6 月)に求まった震源を示しています。

●印は前期間までの 11 ヶ月間(2005 年 6 月~2006 年 5 月)に求まった震源を示しています。

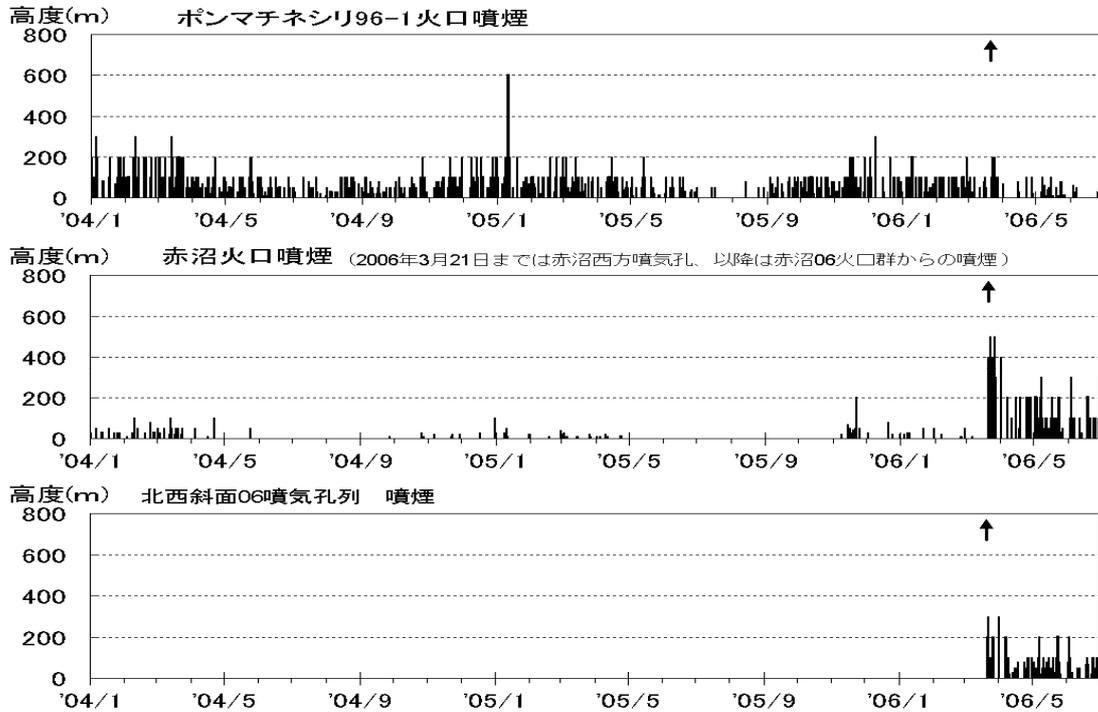
雌阿寒岳で発生した地震の多くは、ポンマチネシリ火口直下の浅い所(山頂から深さ約 1.5km 付近)に分布しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』および『数値地図 10m メッシュ (火山標高)』を使用しています。(承認番号 平 17 総使、第 503 号)

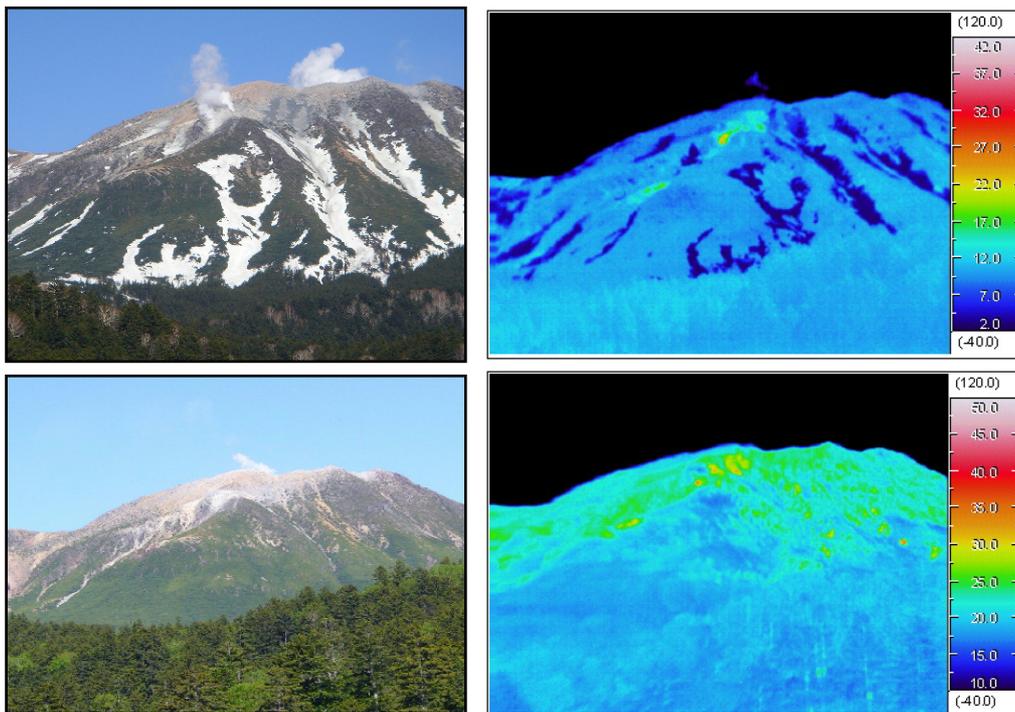
### 3 噴煙の状況

3月21日の小噴火以降、赤沼06火口群や北西斜面06噴気孔列の噴煙活動は活発な状態でしたが、その後低下傾向が認められており、やや活発な状態となっています。噴煙の高さは火口縁上100～200mで推移しました。また、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の高さは、火口縁上おおむね100m以下で推移しました。

26日に実施した山麓からの赤外熱映像装置\*による観測では、北西斜面06噴気孔列の噴気および地熱域に対応した高温領域が認められましたが、その状況に特に変化は認められませんでした。



最近の噴煙の状況（2004年1月～2006年6月） ↑印は噴火



赤外熱映像装置\*による山頂北西側斜面の表面温度分布

上段（5月8日撮影） 下段（6月26日：釧路地方気象台撮影）

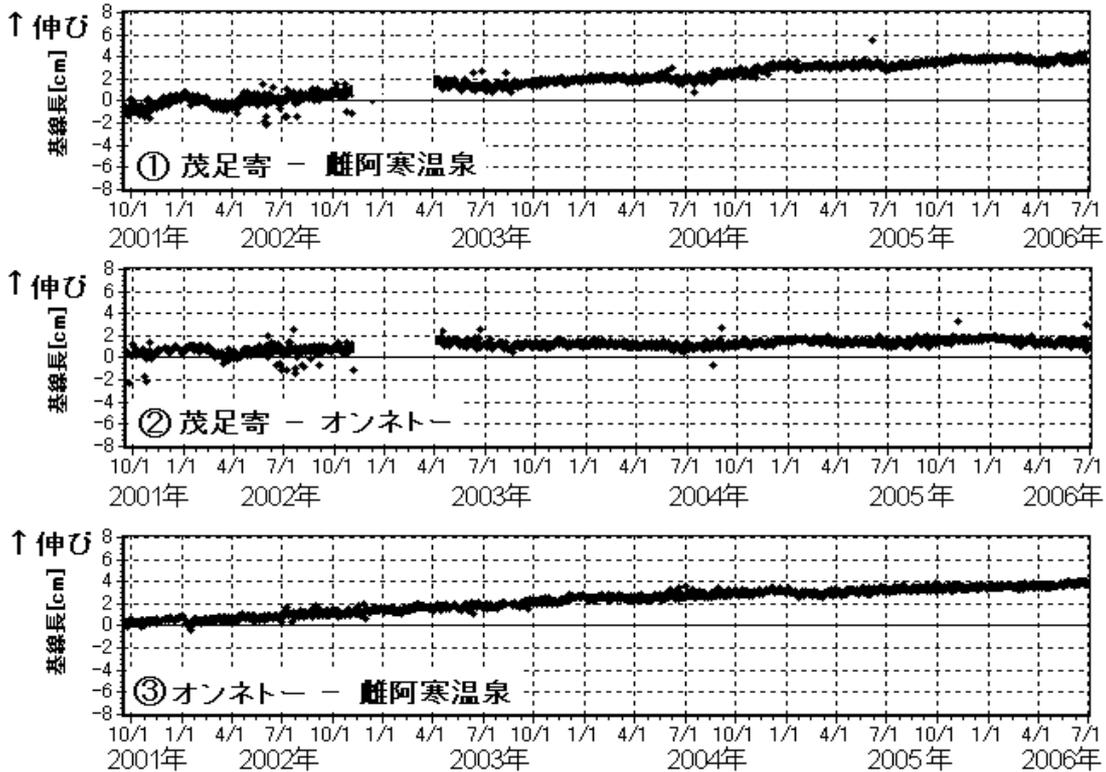
噴気箇所や地熱域に対応した高温領域が見られますが、その状況に特に変化は認められません。

\* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

#### 4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。

また、5月31日～6月2日にかけてGPS繰り返し観測を実施しました。3月21日の小噴火を挟む2005年9月～2006年6月の期間では、小噴火に伴う顕著な変動は認められませんでした。



基線長変化 (2001 年 9 月 19 日～2006 年 6 月 30 日) 基線長変化グラフの空白部分は欠測



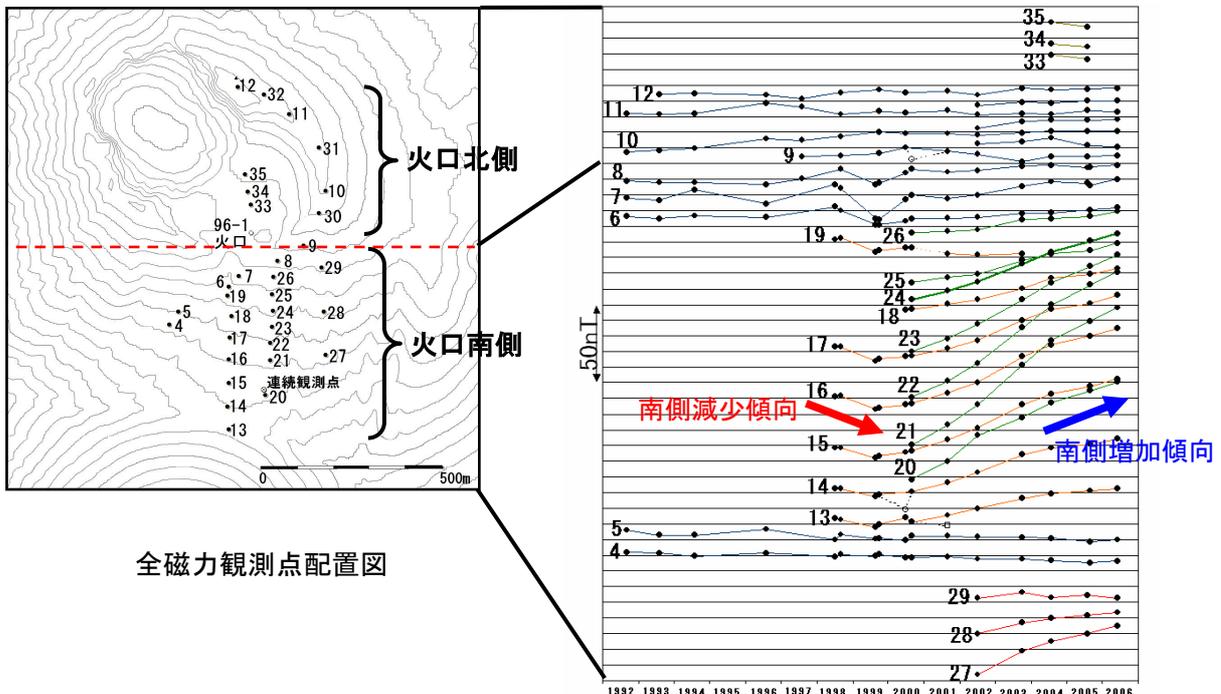
GPS 連続観測点配置図

※「剣ヶ峰」「フレベツ岳北麓」「飽別」の連続観測点については、2006年5月に設置し観測を開始しました。現在データを蓄積中です。

### 5 地下の熱の状況（地磁気全磁力の観測結果）

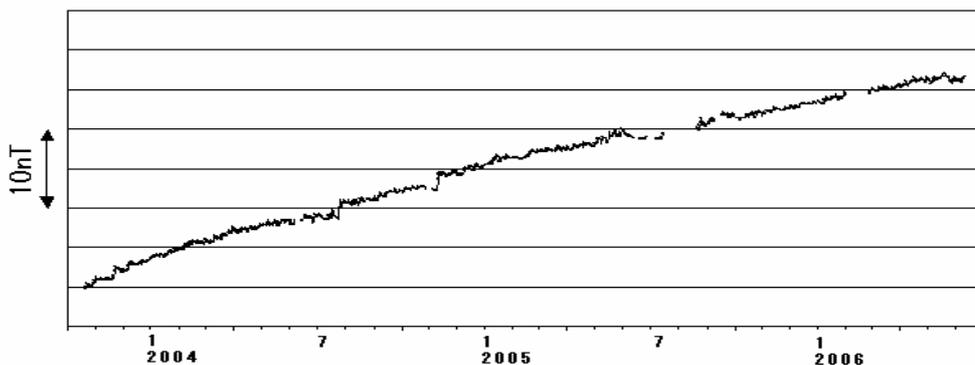
気象庁地磁気観測所が実施している全磁力連続観測および6月5日に実施した全磁力繰り返し観測によると、96-1 火口付近の地下の温度低下を示す変化が継続しています。

また全磁力連続観測では、2006 年 3 月 21 日の小噴火前後で特段の変化は認められていません。これは、3 月の小噴火において、山体の地下浅部を広範囲に温度上昇させるほどの熱エネルギーの供給がなかったことや、全磁力連続観測点が小噴火の発生した赤沼火口および山頂北西側斜面から離れているため、変化が捉えられなかった可能性が考えられます。



全磁力観測点配置図

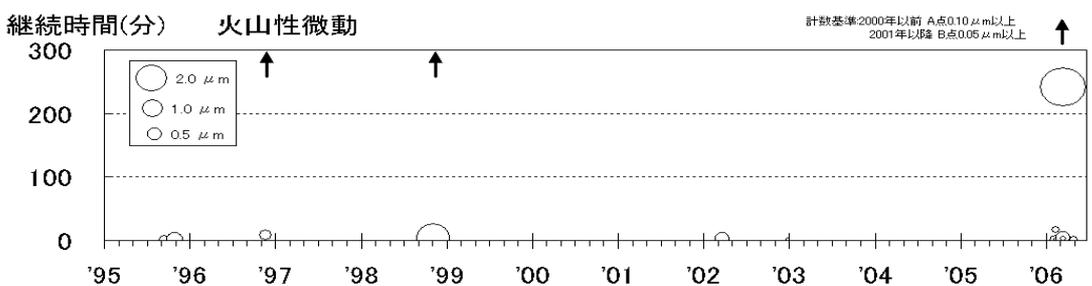
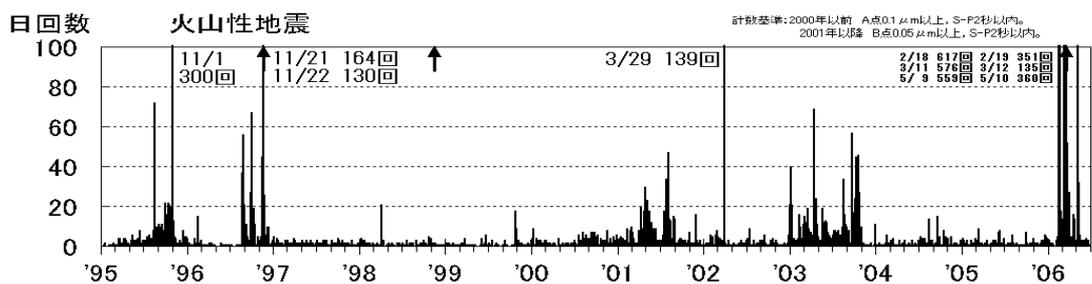
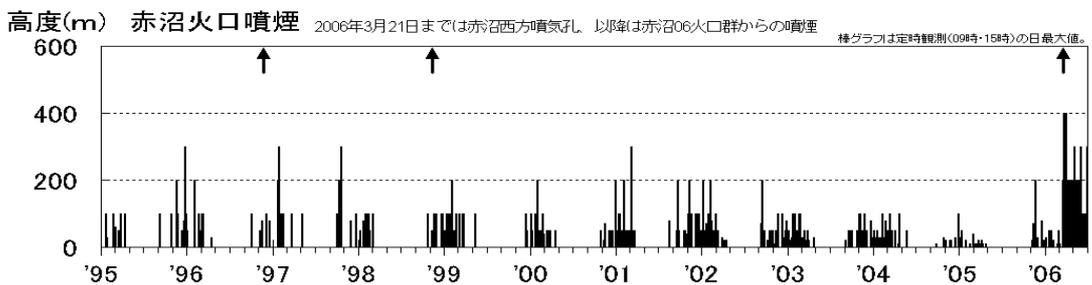
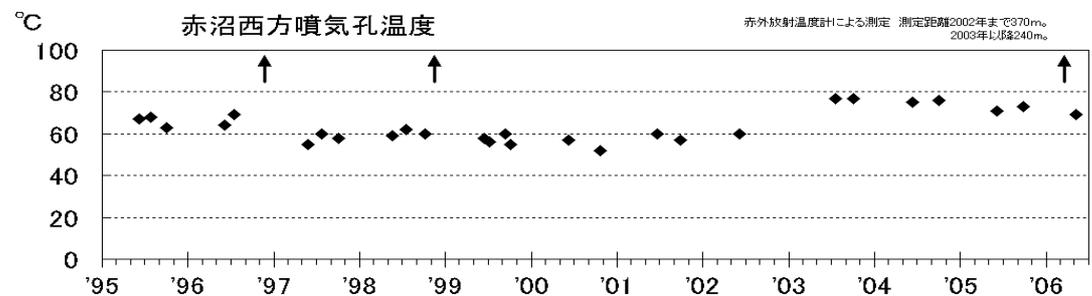
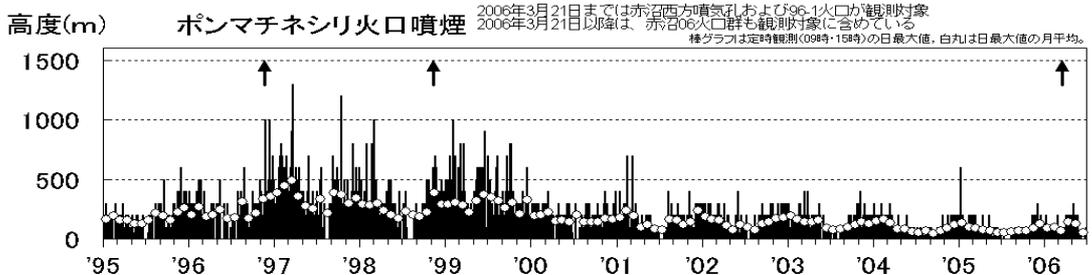
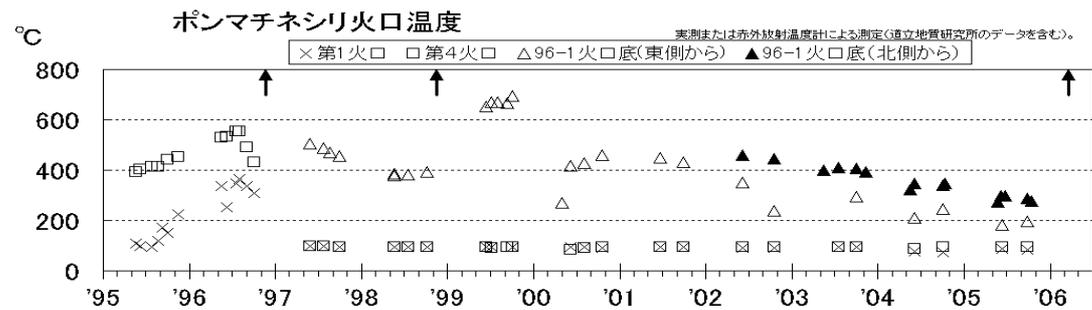
全磁力繰り返し観測結果（1992 年～2006 年）



全磁力連続観測の結果（2003 年 10 月～2006 年 6 月）

〈補足〉全磁力値の変化と、示唆される火口直下の温度変化

火口北側の観測点: <b>増加</b> 傾向(図中 上向き)	➡	火口直下での温度上昇を示唆する変化
火口南側の観測点: <b>減少</b> 傾向(図中 下向き)	➡	火口直下での温度低下を示唆する変化
火口北側の観測点: <b>減少</b> 傾向(図中 下向き)	➡	火口直下での温度低下を示唆する変化
火口南側の観測点: <b>増加</b> 傾向(図中 上向き)	➡	火口直下での温度上昇を示唆する変化



近年の火山活動経過図 (1995 年 1 月 1 日~2006 年 6 月 30 日) ↑印は噴火